

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成26年9月18日(2014.9.18)

【公表番号】特表2011-509184(P2011-509184A)

【公表日】平成23年3月24日(2011.3.24)

【年通号数】公開・登録公報2011-012

【出願番号】特願2010-542258(P2010-542258)

【国際特許分類】

B 05 D 3/10 (2006.01)

B 05 D 7/14 (2006.01)

C 23 C 26/00 (2006.01)

【F I】

B 05 D 3/10 B

B 05 D 7/14 Z

C 23 C 26/00 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年7月31日(2014.7.31)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0001

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0001】

本発明は、金属表面、未硬化の自己析出被膜の第1層、及び自己析出被膜の中間硬化なしにその表面上に連続的に析出された第2の未硬化の塗料層を含む被覆品、前記自己析出被膜及び塗料層ないし層群を共硬化する方法(CO-CURE PROCESS)、並びに、硬化した自己析出被膜層と、少なくともこの硬化した自己析出被膜層に直に隣接する硬化した塗料層との間ににおける化学結合を有する硬化被覆品に関するものである。

該被覆品及び方法は、金属表面を有する耐食塗装品の製造に有用である。

本発明の1つの利点は、耐食塗装品の製造に必要とされる工程数、床面積、時間、エネルギーにおける低減、及び、いくつかの実施形態における、密着性を改良する自己析出被膜及び塗料層間の化学結合である。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0007】

本発明の目的は、

a) 少なくとも1つの金属表面を有する基材を、約1～約4の間のpHの自己析出浴と、未硬化の自己析出被膜が該表面上に析出するのに十分な時間でかつ十分な温度にて接触させ；

b) 水で洗浄し；

c) 必要に応じて、当該未硬化の自己析出被膜をアルカリ性又は酸性洗浄剤と接触させ；

d) 必要に応じて、当該未硬化の自己析出被膜を脱水し；

e) 当該未硬化の自己析出被膜上に未硬化の塗料層を析出し；

f) 当該未硬化の自己析出被膜及び当該未硬化の塗料層を共硬化(co-curing)させる；

ことを含む、自己析出被膜及び塗料層の共硬化(co-curing)方法を提供することにより、上記した要望を満たし、そして従来技術の欠点の少なくともいくつかを解消することにある。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0008

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0008】

本発明の他の目的は、金属表面、未硬化の自己析出被膜を含む第1層、及び当該第1層とは異なる、未硬化の塗料を含む第2層を有してなり、当該第1層及び第2層は連続的に析出されてなる、塗装品を提供することにある。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

本発明のさらに別の目的は、金属表面、当該金属表面上に析出された未硬化の自己析出被膜を含む第1層、及び中間硬化なしに当該未硬化の自己析出被膜の表面上に析出された、当該第1層とは異なる、未硬化の塗料層を含む第2層を有する、塗装品を提供することにある。

さらにまた別の目的は、前記第1層が、前記第2層の析出に先立ち脱水されたものである当該塗装品を提供することにある。

一実施形態において、前記第2層は粉体塗料層である。この実施形態において、前記第1層は、粉体塗料層の析出に先立ち脱水され得る。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

本発明のさらに別の目的は、

a) 少なくとも1つの活性な金属表面を有する基材を、

1) 自己析出液状組成物に基づいて少なくとも1.0%の、溶解され、分散され、あるいは溶解かつ分散された、被膜形成性ポリマー分子の成分、好ましくは、当該被膜形成性ポリマー分子は、アクリル系、ポリ塩化ビニル、エポキシ、ポリウレタン、フェノール-ホルムアルデヒド縮合ポリマー、エポキシ-アクリル系混成ポリマー、の重合体ないし共重合体、並びにこれらの混合物からなるものである；

2) 必要に応じて、少なくとも1つの乳化剤；

3) 必要に応じて、少なくとも1つの架橋剤；

4) 酸、酸化剤、及び直前に列挙した成分(1)、(2)又は(3)の一部ではない錯化剤からなる群から選択されてなる少なくとも1つの溶解した促進剤成分、なお、この促進剤成分は標準水素電極よりも少なくとも100mV以上酸化する酸化還元電位を、自己析出する液状組成物全体に与えるのに十分な強度及び量とされるものである；
を有してなり、pHが約1～約4の範囲にある、自己析出浴と、未硬化の自己析出被膜が当該少なくとも1つの活性な金属表面上に析出するのに十分な時間でかつ十分な温度にて接触させ；

b) 水で洗浄し；

c) 必要に応じて、当該未硬化の自己析出被膜をアルカリ性又は酸性洗浄剤と接触させ

- ;
- d) 必要に応じて、当該未硬化の自己析出被膜を脱水し；
 - e) 当該未硬化の自己析出被膜上に未硬化の塗料層を析出し；そして、
 - f) 当該未硬化の自己析出被膜及び当該未硬化の塗料層を共硬化（co-curing）させる；

ことを含む、少なくとも1つの活性な金属表面を有する基材を有してなる物品の処理方法を提供することにある。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0017

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0017】

本発明の目的は、また、金属表面、当該金属表面上に析出された未硬化の自己析出被膜を含む第1層、及び中間硬化なしに当該未硬化の自己析出被膜の表面上に析出された、当該第1層とは異なる、未硬化の塗料層を含む第2層を有する、塗装品を提供することにある。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

a) 少なくとも1つの金属表面を有する基材を、約1～約4の間のpHの自己析出浴と、未硬化の自己析出被膜が該表面上に析出するのに十分な時間でかつ十分な温度にて、接触させる、代表的な自己析出浴は、未硬化の自己析出被膜を析出させるために、雰囲気温度、例えば、10～38、好ましくは15～30、より好ましくは20～30に維持されているものである；

b) 水で洗浄し；

c) 必要に応じて、当該未硬化の自己析出被膜をアルカリ性又は酸性洗浄剤と接触させ；

d) 必要に応じて、当該未硬化の自己析出被膜を脱水し；

e) 当該未硬化の自己析出被膜上に未硬化の塗料層を析出し；そして、

f) 当該未硬化の自己析出被膜及び当該未硬化の塗料層を共硬化（co-curing）させる；

ことを含む、本発明に係る自己析出被膜及び塗料層を共硬化（co-curing）する方法が、本明細書において提供される。